

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

黒崎みのり 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 **Functional Recovery after Rehabilitation in Patients with Post-stroke Severe Hemiplegia**

（脳卒中による重度片麻痺がある患者のリハビリテーション後の機能回復）

Progress in Rehabilitation Medicine 7 : 20220039, 2022

Minori Kurosaki, Masahiko Tosaka, Yoko Ibe, Hironori Arie, Junichi Tomono, Masayuki Tazawa, Tatsuya Shimizu, Masanori Aihara, Yuhei Yoshimoto, Naoki Wada

論文の要旨及び判定理由

本邦では毎年25万人以上の患者が脳卒中に罹患し、その20～30%が重度の障害に直面する。脳卒中リハビリテーション後の予後予測はこれまでも広く調査され、予後に関連するのは年齢と発症時の麻痺の重症度であるとされる。しかしリハビリテーションを行うことにより自宅や介護施設での自立した生活を実現できる場合がある。今回の研究では重度片麻痺のある脳卒中患者の、リハビリテーション開始時の状態と終了後の予後との関係を検討した。

2014/4/1～2017/9/30に、急性期脳卒中と診断されて当院のStroke Care Unit (SCU)に入院した患者は699人のうち、脳卒中のリハビリテーション開始時にBrunnstrom recovery stage I-IIの重度の片麻痺のあった患者50名を対象とした。年齢、性別、脳卒中病巣の左右、病巣の大きさ、脳卒中のタイプ、入院からリハビリテーション開始までの期間、Japan Coma Scale、Glasgow Outcome Scale、手術介入、失語、退院先などを調べ、早期リハ開始時、回復期リハ開始時と終了時のStroke Impairment Assessment Set Motor score (SIAS-M)と Functional independent measure (FIM)を用いて評価した。リハビリテーション後の良好な転帰はFIM \geq 100で自立した生活と定義し、機能回復の予測因子を統計的に分析した。

50例中12例（24%）でFIM \geq 100の回復が得られ、リハビリテーション後に自立した生活が可能となった。一変量解析の結果から予後が良好な要因は、年齢が70歳未満であること、脳出血による麻痺であること、皮質病変がないこと、脳卒中の発症から回復期リハビリテーションまでの期間が短い（1カ月以内）こと、早期リハビリテーションおよび回復期リハビリテーション開始時の状態が良好であることであった。予後良好群12人のうち11人は、基底核の脳出血で皮質の損傷はなかった。皮質病変がない被殻または視床の多くの患者は予後良好だが、混合型（被殻+視床）の出血は予後不良であった。脳梗塞は皮質病巣があると重度片麻痺を生じ、予後不良と関連していた。重度の片麻痺を有する脳卒中患者では、脳出血と脳梗塞で病変の分布がやや異なっていた。皮質病変は脳卒中片麻痺の予後を左右する因子である。特に皮質病変のない重度片麻痺患者に対しては、より積極的なリハビリテーションの介入が重要であると考えられた。

本研究は、皮質損傷がない重度脳卒中の患者がリハビリテーション後に自立したADLを得られる場合があることを示したことが今後のリハビリテーション医療の発展に寄与すると認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（審査年月日）令和 4 年 9 月 27 日

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 脳神経内科学 分野担任	池田 佳生 印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 救急医学 分野担任	大嶋 清宏 印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 公衆衛生学 分野担任	浜崎 景 印

参考論文

1. Impact of a Multidisciplinary Round Visit for the Management of Dysphagia Utilizing a Wi-Fi- Based Wireless Flexible Endoscopic Evaluation of Swallowing

（Wi-Fiを使ったワイヤレスフレキシブル内視鏡による嚥下評価を用いた、嚥下障害の管理のための集学的回診の影響）

Sakakura K, Tazawa M, Otani N, Takagi M, Morita M, Kurosaki M, Chiyoda T, Kanai Y, Endo A, Murata T, Shino M, Yokobori Y, Shirakura K, Wada N, Chikamatsu K